049 室町時代 惣村と各層の一揆

惣村ができた理由2つ

- ① 南北朝の動乱から自衛するために
成立した、自立的・自治的な村。
- ② 鎌倉時代後期に 刈藪・草木灰
等の自給肥料の使用が普及したので
→ 入会地の共同管理 の必要性。

惣村の指導者

- ① 乙名
経済的に安定していて、年長で、人望が
あって、皆から推されてなる。
- ② 沙汰人
領主の命令(=沙汰)を伝える現地代官
だったが、惣の構成員となった上層農民。
- ③ 神社の祭礼を通して村の結束を強めた。
宮座 という祭祀集団の上層農民が
年番で祭りを主催。私財で祭費用を負担。

惣村の全体会議(寄合という)

- ① 寄合 という会議の決定に従う。
- ② 領主との交渉は乙名がやる。命がけ
- ③ 年貢納入を、惣村がひとまとめにして請
け負う 地下請の契約 を領主と結
ぶことも。→領主の干渉を排除できる。
- ④ 村民全員で実力行使も。

あ 強訴 …領主のもとに押しかける。

い 逃散 …全員で耕作を放棄して山に
逃げ込む。

う 規律を破った村民には重いペナルティ
村の規律・規約を 惣掟

え 地下検断

村民自身が警察権、裁判権、刑の執行権
を行使すること。

お 惣郷 …複数惣村の広域的連合体。

⑤ 惣村の解体(戦国時代)

乙名・沙汰人が大名の家臣化〔地侍〕

< 土一揆 > 土民の一揆

1428年 正長の徳政一揆

足利義教 の6代将軍が決まった時。
京都では侍所の長官の赤松満祐が鎮圧。
大和では領主に 私徳政 を出させた。
→奈良県柳生に 柳生の徳政碑文 発見

1429年 播磨の土一揆

赤松満祐 の領国の 播磨 の土民が
赤松の軍勢退去 という政治的要求。

1441年 嘉吉の徳政一揆

足利義教が 赤松満祐 に暗殺、
足利義勝の7代将軍が決まった時。
数万人の土一揆が京都を占領。
幕府に徳政令を出させた。

< 国一揆 > 国人と土民の共同一揆

1485年 山城の国一揆

応仁の乱 後も家督争いを続けていた
畠山政長軍と畠山義就軍を追放。
宇治平等院 が議会場。
国人中心に 8年間自治 を実現。

1488年 加賀の一向一揆

あ 蓮如 が浄土真宗布教に成功。

い 京で迫害され北陸の 吉崎御坊 へ
う 仏教講話を聴く集会〔講〕を
まめに開かせた。会場は 乙名
の居宅が多い。

え まめに蓮如自筆の 御文 を送る。
乙名が 講 の場で読み聞かせる。

お 守護 富樫政親 軍1万が弾圧してきた
門徒20万で反撃。

結果 門徒が100年間自治。

(百姓の持ちたる国)